

<スポーツ教育学科> (認定課程: 中学校1種(保健体育))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	教職共通科目として、一般教養として必要な日本国憲法、外国語コミュニケーションの基礎知識を理解する。 「スポーツ科学入門」の履修により、学士課程プログラムの専門教育全体について見通しをもち、教科に関する専門的事項の科目(教科科目)との関連づけを意識できるようになる。 教科科目として、「体育・スポーツ原論」、「解剖・生理学A」を履修し、「多様な人々の健康と生涯スポーツに関する学び」の教職課程に関連のある科目(関連科目)「レジャー・レクリエーション論」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。
	2 Semester	教職共通科目として、一般教養として必要な体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作などの基礎知識を理解する。 教科科目として、「体育・スポーツ史」、「解剖・生理学B」を履修し、「多様な人々の健康と生涯スポーツに関する学び」の関連科目「障害者スポーツ論」、「レクリエーション基礎実習」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。 関連科目「運動部指導観察演習」を履修し、学科の専門性と課外活動指導との関連性を理解する。
2年次	3 Semester	教職科目では、教育の基本的概念や理念、歴史を理解する。また、教職の意義、教員の資質能力等の基礎を身に付け教職の在り方を理解する。 教科科目として、「体育・スポーツ心理学」、「健康学概論」を履修し、「学校教育に関する学び」の関連科目「スポーツ教育学」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。 関連科目「安全教育」を履修し、健康・安全に関する学科の専門教育との関連性を理解する。
	4 Semester	教職科目では、学校教育に関する基礎的な知識や課題、各発達段階に応じた指導及び教育課程、カリキュラム・マネジメントの意義などを理解する。 教科科目として「バイオメカニクス」、「生涯スポーツ論」、「運動・スポーツ生理学」を履修し、「学校教育に関する学び」の関連科目「健康教育学」、「スポーツと社会に関する学び」の関連科目「スポーツ社会学」、「スポーツ行政・政策論」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。 教科の指導法に関する科目「体育科教育法Ⅰ」を履修し、教科の指導内容と指導法を理解する。
3年次	5 Semester	教職科目では、基礎的な教育の方法及び情報通信技術を活用した教育、道徳教育、特別支援教育の意義や指導法について理解する。 既に修得済みである教科科目「スポーツ実技」に加えて、関連科目「体育実技指導法」を履修することにより実技指導の実践力を高める。「学校現場での学び」の関連科目「学校指導実習」を履修することにより、教育現場を体験して教育実習に向けた心構えを高める。 教科科目として、「衛生・公衆衛生学A」、「学校保健A」を履修し、「スポーツコンディショニングに関する学び」の関連科目「スポーツ栄養学」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。 専門教育の基幹科目の履修により、教科の専門的力量を高める。
	6 Semester	教職科目では、学校における教育相談の意義や課題、総合的な学習の時間、特別活動の意義や指導のあり方などを理解する。 教科科目として、「衛生・公衆衛生学B」、「学校保健B」を履修し、「スポーツと心身に関する学び」の関連科目「健康診断演習」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。 教科の内容及び構成に関する授業科目である複合科目「保健体育科教科内容論」を履修し、教科科目と学習指導要領の関連づけを図る。
4年次	7 Semester	教職科目では、生徒指導及び進路指導の意義や原理、指導方法などについて理解する。 関連科目「救急処置法」を履修し、教科の指導法に関する「保健科教育法Ⅰ・Ⅱ」に関する実践力を高める。
	8 Semester	教職科目では、4年間の学士課程プログラムと教職課程の学びとの関連を総括し、自身の教職適性も含めた省察を行い、教職への積極的な態度をもち、実践に向かうことができる。
	通年	「教育実習Ⅰ」を履修し、十分な事前指導ののちに教育現場に参加することを通して、授業実践の基本的力量を身に付けると共に、教科指導にとどまらない、教師としての職務について体得する。教科指導においても、あらゆる場面に対し適切に対応し、自律的に指導法を改善できるようになることを目指す。また、生徒観を磨き、教師という職業の実態を理解し、教職への意欲を確かなものにする。この達成を確かなものにするために、事後指導を行う。

<スポーツ教育学科> (認定課程: 高等学校1種(保健体育))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	教職共通科目として、一般教養として必要な日本国憲法、外国語コミュニケーションの基礎知識を理解する。 「スポーツ科学入門」の履修により、学士課程プログラムの専門教育全体について見通しをもち、教科に関する専門的事項の科目(教科科目)との関連づけを意識できるようになる。 教科科目として、「体育・スポーツ原論」、「解剖・生理学A」を履修し、「多様な人々の健康と生涯スポーツに関する学び」の教職課程に関連のある科目(関連科目)「レジャー・レクリエーション論」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。
	2 Semester	教職共通科目として、一般教養として必要な体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作などの基礎知識を理解する。 教科科目として、「体育・スポーツ史」、「解剖・生理学B」を履修し、「多様な人々の健康と生涯スポーツに関する学び」の関連科目「障害者スポーツ論」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。 関連科目「運動部指導観察演習」を履修し、学科の専門性と課外活動指導との関連性を理解する。
2年次	3 Semester	教職科目では、教育の基本的概念や理念、歴史を理解する。また、教職の意義、教員の資質能力等の基礎を身に付け教職の在り方を理解する。 教科科目として、「体育・スポーツ心理学」、「健康学概論」を履修し、「学校教育に関する学び」の関連科目「スポーツ教育学」、「多様な人々の健康と生涯スポーツに関する学び」の関連科目「発育老化論」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。 関連科目「安全教育」を履修し、健康・安全に関する学科の専門教育との関連性を理解する。
	4 Semester	教職科目では、学校教育に関する基礎的な知識や課題、各発達段階に応じた指導及び教育課程、カリキュラム・マネジメントの意義などを理解する。 教科科目として「バイオメカニクス」、「生涯スポーツ論」、「運動・スポーツ生理学」を履修し、「学校教育に関する学び」の関連科目「健康教育学」、「スポーツと社会に関する学び」の関連科目「スポーツ社会学」、「スポーツ行政・政策論」、「ダイバシティ社会論」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。 教科の指導法に関する科目「体育科教育法Ⅰ」を履修し、教科の指導内容と指導法を理解する。
3年次	5 Semester	教職科目では、基礎的な教育の方法及び情報通信技術を活用した教育、特別支援教育の意義や指導法について理解する。 既に修得済みである教科科目「スポーツ実技」に加えて、関連科目「体育実技指導法」を履修することにより実技指導の実践力を高める。「学校現場での学び」の関連科目「学校指導実習」を履修することにより、教育現場を体験して教育実習に向けた心構えを高める。 教科科目として、「衛生・公衆衛生学A」、「学校保健A」を履修し、「スポーツコンディショニングに関する学び」の関連科目「スポーツ栄養学」、「スポーツと社会に関する学び」の関連科目「スポーツ法学」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。 専門教育の基幹科目の履修により、教科の専門的力を高める。
	6 Semester	教職科目では、学校における教育相談の意義や課題、総合的な学習の時間、特別活動の意義や指導のあり方などを理解する。 教科科目として、「衛生・公衆衛生学B」、「学校保健B」を履修し、「スポーツと心身に関する学び」の関連科目「健康診断演習」、「スポーツと社会に関する学び」の関連科目「スポーツ環境論」の学修において、学科の専門教育と関連づけて理解する。 教科の内容及び構成に関する授業科目である複合科目「保健体育科教科内容論」を履修し、教科科目と学習指導要領の関連づけを図る。
4年次	7 Semester	教職科目では、生徒指導及び進路指導の意義や原理、指導方法などについて理解する。 関連科目「救急処置法」を履修し、教科の指導法に関する「保健科教育法Ⅰ・Ⅱ」に関する実践力を高める。
	8 Semester	教職科目では、4年間の学士課程プログラムと教職課程の学びとの関連を総括し、自身の教職適性も含めた省察を行い、教職への積極的な態度をもち、実践に向かうことができる。
	通年	「教育実習Ⅱ」を履修し、十分な事前指導ののちに教育現場に参加することを通して、授業実践の基本的な力量を身に付けると共に、教科指導にとどまらない、教師としての職務について体得する。教科指導においても、あらゆる場面に対し適切に対応し、自律的に指導法を改善できるようになることを目指す。また、生徒観を磨き、教師という職業の実態を理解し、教職への意欲を確かなものにする。この達成を確かなものにするために、事後指導を行う。